

# 蕨むかし ばなし

Vol.3

蕨市に語り継がれる

昔話をご紹介します。

火伏せ地蔵さん

北町三丁目にある三学院というお寺には、「火伏せ地蔵さん」と呼ばれる大きなお地蔵さまがあります。

江戸時代のこと。

蕨宿は、中山道をはさんで、南北に家並みが軒をつらねていましたので、北風や南風が激しく吹くと、すぐに大火事になってしまうため、人々はとても火事を恐れています。ある日の朝、北風が激しく吹く中、桶屋さんに大男のお坊さんがやってきました。

お坊さんは桶屋さんの主人に、

「急いであるだけの手桶をもつて、三学院の地蔵尊の前まで届けなさい。」

といつて去っていきました。

すぐに手桶を大八車に積めるだけ積んで運んでいくと、他の桶屋さんたちも手桶を持って集まっています。

「いつたいどういうことだろ」と不思議に思つていると、「火事だ!」

とさけぶ声が聞こました。

すると、そこへさきほどのお坊さんがやってきて、「この手桶で水をかけなさい。」

と大声で指図をしました。

火事は、たくさん手桶があつたので、すぐに消すことができ、大火事にならないでおさまりました。

人々は、「やれやれ、よかつた」と胸をなでおろしましたが、お坊さんの姿が見えません。そのかわり、お地蔵さまが全身水に濡れ、灰でよごれて立っていたのです。

「そうか、あのお坊さんはお地蔵さまの化身であつたのか」と、人々はそのお慈悲に感激したそうです。

それからというもの、このお地蔵さまは、「火伏せ地蔵さん」と呼ばれるようになり、お参りする人が絶えなかつたということです。

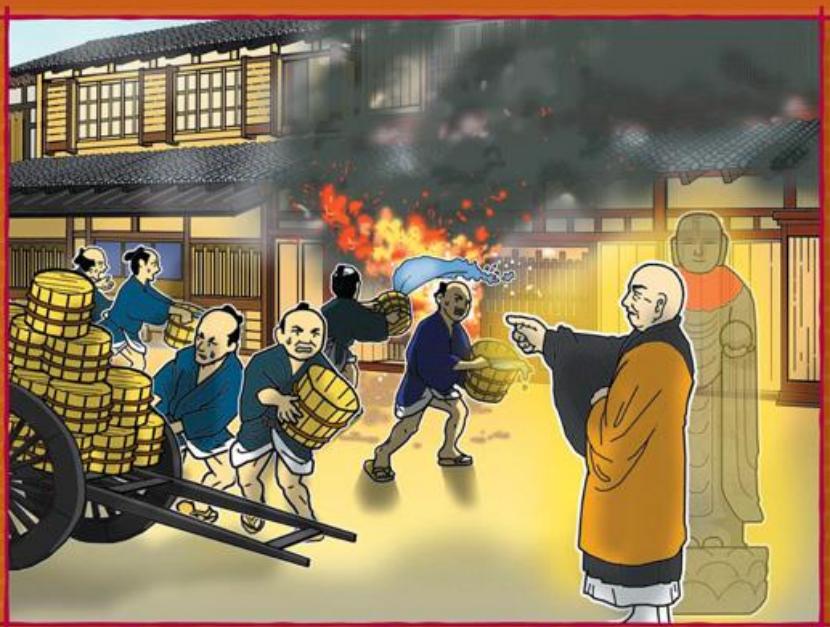


イラスト:砂川 敦志【Sunagawa Atsushi】